

巻頭言

名古屋学芸大学健康・栄養研究所
所長 下方 浩史

梅の開花が報道されています。今年の冬も暖冬で終わりそうです。さて、今年も健康・栄養研究所年報の第11号を無事に発刊することができました。本誌は名古屋学芸大学健康・栄養研究所の研究や実践活動の成果の発表の場であるとともに、その成果を広く社会に知っていただくために発刊を続けています。2009年から、本誌は医学中央雑誌データベースに定期刊行物として収録され、医中誌 Webでも検索できるようになっています。第11号では原著3編、報告4編の論文を掲載しています。

原著では「女子大生における歯科口腔保健に関する行動・学習の現状と各専門教育課程間での比較」、「微小コロニー検査装置による一般生菌数定量精度の検証と実用化の可能性」、「日本人の健康寿命－Global Burden of Diseaseと国民生活基礎調査による健康寿命の比較研究」と、歯科口腔保健、細菌数定量精度、健康寿命など栄養教育、基礎医学、疫学の分野での成果を掲載することができました。

報告では、「『2019年度 食の安全・安心タウンミーティング』報告」、「日進市民講座『健康運動教室』における活動」、「日進市配食サービス助成金受給者の配食弁当利用状況と栄養状態」、「実務者のための栄養管理プロセス研修会（NST 合宿）報告」と、研究所で行っている実践活動や研修など報告がされています。

本号では、今年も「食」に関する論文が多く集まりました。「食」は健康を支える大きな力です。「食」は単に食べるだけでなく、文化や教育、人間の生き方にも深く関わっています。研究所からの研究や実践活動が、人間を取り囲むより幅広い分野に広がっていくことを願っています。